

実績報告書

届出者	住所	大阪市城東区今福西2-4-7	氏名	牛乳石鹼共進社(株) 代表取締役社長 宮崎 悌二
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、化粧石鹼、化粧品等製造販売を行っており、大阪府内には本社と安田工場・総合研究所があります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2017年	4月	1日	～	2020年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2018)年度
温室効果ガス総排出量	3,738 t-CO ₂	3,776 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,991 t-CO ₂	3,997 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (2018年度)	第3年度 (2019年度)
選択	レ	%	%	%	%
	削減率(排出量ベース)	3.0%	5.4%	9.7%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0%	6.4%	10.5%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>例年おこなっているクールビズ、ウォームビズを実施し、社員への意識づけを継続しておこなった。 平成26年4月より、石鹼廃液からバイオガスを抽出し、バイオガスボイラで燃焼させる設備が設計能力へ到達したことにより、都市ガスの使用量が継続して削減できた。 平成26～28年の3カ年をかけて、安田工場で液体製品の生産工程で使用する冷凍機を従来のものより効率の良い吸収冷凍機に更新、また電力のピークカットをはかるため、ガスコージェネレーションシステムも構成を変えて更新した効果が実績にあらわれた。</p>

(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・改正省エネ法に基づき、特定事業者、および第二種エネルギー管理指定工場の指定を受けました。 ・エネルギー管理統括者、エネルギー企画推進者を中心に、より一層省エネに努めて改善を図ります。 ・CSR委員会を通じて、日常の企業活動のなかで省エネ活動を推進します。
--

実績報告書

		東京都大田区下丸子2-11-6		共同リネンサプライ(株)本社 代表取締役 五十嵐 昌治
届出者	住所		氏名	
特定事業者の主たる業種		78洗濯・理容・美容・浴場業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ホテルリネン（シーツ、タオル等）の洗浄及びレンタル業、 （工場）事業所にて展開 関西で4つの		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	2017年 4月 1日～ 2020年 3月 31日 (3年間)
----------	---------------------------------

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2018)年度
温室効果ガス総排出量	8,199 t-CO ₂	8,449 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,482 t-CO ₂	8,690 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019 年度)	第1年度 (2017 年度)	第2年度 (2018 年度)	第3年度 (2019 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	-2.5 %	-3.1 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0 %	-2.4 %	-2.5 %	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>昨年は震災や台風による影響でホテルの稼働も一時的に減少傾向にあったが、30年12月に新規ホテル受注による生産数の増加となり、負担軽減の為に各工場へ生産分配を行ったが、生産キャパオーバーに加え、非効率アイテムの増加と人員不足による時間延長等で目標値エネルギー削減に至らなかった。 総生産重量 29年度⇒ 24,912 t/年 30年度⇒ 24,171 t/年 (97%)</p>
--

(2) 推進体制

<p>グループ会社を含む全社で毎年社内目標計画書を作成し、共同リネンサプライとしては関東(東京本社)と一括管理を行い、温暖化対策及び光熱費削減に取り組んでいます。</p>
